

令和２年度 第２回 堺市自殺対策連絡懇話会 議事録

１ 日 時 令和３年３月１７日（水）午後２時～午後３時３０分

２ 場 所 堺市北区役所 大会議室１

３ 委 員

出席者 秋元委員・狗巻委員・越智委員・隈元委員・佐藤委員・島尾委員・田邊委員・中尾委員
中村委員・梨谷委員・平野委員・松田委員

欠席者 恵口委員

４ 関係者

出席者 こころの健康センター 井川所長
教育委員会学校教育部 江戸部長

欠席者 消防局救急部 川西消防局次長兼救急部長

５ 事務局

精神保健課：永井・前原・松尾・村上・肥塚

こころの健康センター：片山

６ 議事の内容

（１） 開会

- ・堺市情報公開条例第３５条に基づき、会議を公開することを確認。

（２） 委員、関係者及び事務局職員紹介

（３） 案件・報告

案件① 堺市の自殺の状況について

【事務局】

＜令和元年人口動態統計（確定値）について（事前送付資料３参照）＞

- ・令和元年人口動態統計（確定値）に基づく、堺市の自殺者数は、１２３名。自殺死亡率は、１４．９と、政令市中１４番目であった。
- ・説明において便宜上、自殺者数等に関して「増える」「減る」というような説明の仕方をするが、自殺で亡くなった方は戻ってこない。本来このような統計は積み重なっていくといった認識で見ると、この点は、念頭に置いておきたいと考えている。

＜地域自殺実態プロファイル（２０２０更新版）（事前送付資料４参照）＞

- ・国から示されている「地域自殺実態プロファイル」は、地域の自殺の実態を理解できるツールとなっており、いのち支える自殺対策推進センターによって作成されている。２０２０年版は、２０１５年～２

019年の5年間で集計したものである。

- ・前年度との比較で自殺者が多かった区分について、1位に変更なく、2位と3位で順位の入れ替わりがあったが、上位3位までは変わらず、引き続き同じ重点パッケージの「高齢者」「生活困窮者」「勤務・経営」となっている。また、4位、5位についても前年度より順位が入れ替わっているが、上位5位までの項目に変化はなかった。
- ・「地域の自殺の特性の評価」についても、前年度に引き続き同様の結果となっている。
- ・国からの説明では、上位区分の順位や推奨されるパッケージ等については、人口が多い政令市になると、概ね似かよった傾向になると聞いている。4年続けて同様の内容が示されており、堺市における長期的な特徴であると捉え、今後の施策の参考としていきたい。

＜地域における自殺の基礎資料（厚生労働省作成）（事前送付資料5参照）＞

- ・「地域における自殺の基礎資料」は、厚生労働省が警察庁の自殺統計をもとに作成したものである。
- ・全国規模においては、今回新型コロナウイルス感染症の影響もあり、確定値では、自殺者数は全国で21,081人、対前年比約4.5%増となっている。
- ・各月ごとの自殺者数の変化については、令和2年の暫定値では4～6月までの間は前年の確定値と比べて自殺者数が減少傾向にあった。7月以降は12月まで前年と比べて自殺者はすべての月で増加傾向となっている。
- ・月別男女別の推移では、7月以降女性の自殺者が増加傾向となっている。その中でも10月が前年同月が466人（確定値）であったのに対して、今年は889人（暫定値）と前年比より90.7%の増加を示している。

＜地域における自殺の基礎資料（堺市の現状）（事前送付資料5－2参照）＞

＜堺市「地域における自殺の基礎資料」（当日資料参照）＞

- ・令和2年の自殺者の月別男女別の推移では、特徴的な動きとして8月に男女の自殺者が逆転している状況にあった。これは8月のみであり、その後は特に女性が増加している傾向はない。
- ・堺市で8月のみ女性の自殺者が増加した要因として、直前の7月に著名人の自殺があったことも、少なからず影響しているのではないかと考えている。
- ・過去5年間の自殺者の推移では、令和元年の確定値は121名となっており、令和2年は確定値で143名となっており、前年から22名の増加となっている。
- ・堺市においては「地域における自殺の基礎資料」の（自殺日・居住地）ベースをもとに統計を取っている。資料5では（発見地・発見日）ベースとなっており、その点では少し誤差はあるが、その自治体により正確な自殺者を確認するためには（自殺日・居住地）ベースで見る方がよいため、堺市ではそのような集計をしている。

委員からの意見・質疑

【中村委員】

資料5-2で堺市の自殺者の推移では今年度8月だけ女性が上がっているが、他の年度も上がっているのか、変わらないのか。著名人の自殺が要因と言われるが、もし、今年だけならそれも一因と思われるがどうか。

【事務局】

男女の自殺者の数について、令和元年度でも逆転することはなかったので、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響や、著名人の自殺などの様々な要因の結果、一時的な逆転が起こったのではないかと考えている。

【平野委員】

同じく資料 5-2 で、今年度は秋ごろに自殺者のピークがきており、全国的にも同じような傾向になっているが、堺市においても秋ごろにピークが起きていることはやはり珍しいことが起きているという風に理解してよいか。

【事務局】

全国的にも 7 月以降で自殺者の増加がみられ、堺市においても前年度に比べ 20 数名の増加となっており、全国的な傾向と同様の状況と考えている。

【平野委員】

例年は全国と同じく 3 月、5 月にピークがきているが、去年は秋口にピークがきていると理解していいということか。

【事務局】

その通り。

案件② 「市民等意識調査」の結果報告について

【事務局】

＜市民等意識調査報告書（資料 6－1 参照）＞

＜市民意識調査単純集計表（資料 6－2 参考）、市民意識調査票（資料 6－3 参考）＞

・資料 6－1 から 6－3 をもとに説明。

委員からの意見・質疑

【平野委員】

問 28 の最初の質問で「最近 1 年間で「死にたい」と思うほど悩まれたことはありましたか」で、そこで堺市でも「たびたびあった」「まれにあった」で約 11% と高い結果がでており、例年通りの結果になっているということによろしいか。

【事務局】

前回の H27 年度の調査で、少し文言が変わっておりはっきりと比較ができるかわからないが、前回調査では最近 1 年間で「いなくなってしまうたい」という表現であり、今回は「死にたい」という表現に変更している。前回の「いなくなってしまうたい」ほどの悩みの調査結果では、「たびたびあった」「まれにあ

った」の合計が15.3%との割合を示していた。前回調査から、少し減少した結果となっている。

【平野委員】

問30のところと問28のクロス表を作ると今年の特徴が見えてくるのではないかと思った。例えば、「不安感が増した」と答えた人の希死念慮が強いみたいなことがわかったりすると、コロナ禍の影響も増々見えてくるのではないか。もしそのような分析もあると良いのではないかと思った。

【事務局】

参考となるものかはわからないが、自殺未遂者支援でも、未成年の方の受理件数がこの2、3年増加しており、今年度では、コロナ禍における国の自殺の動向と同様に、40代の女性の方においては、原因動機として家庭問題の中でも虐待やDVといった問題を抱える方が増加している。今回のアンケート調査で、「死にたいと思ったことがある」と回答された方の年代別を把握し、自殺未遂者支援のデーターと見比べることが出来ればと考えている。

【狗巻委員】

問21の今回の結果とこれまでの結果ではいかがか。

【事務局】

問21の調査については、前回調査よりも少し下がっているという結果になっている状況である。

【狗巻委員】

医療機関でも自殺未遂者支援、行政の窓口の案内も患者や家族に渡したいと思うが、周辺機関が関わっている中で広まらないのは何か原因があるのかなと少し疑問に思った次第である。

【事務局】

今回の調査結果を真摯に受け止めていきたい。その上で、コロナ禍での限られた予算やマンパワーの中で、どのような形での周知や、現在の取組を拡充できるのかを考えていきたい。まず、自殺対策は、精神保健、メンタルヘルスだけの問題ではなくて、地域づくりであり、その方自身の本来の自由を回復させるためには地域が重要な役割を果たす、ということを庁内関係部署等へ発信し続けていきたいと思っている。現計画の関連事業の中でも、今一度、洗い出しを図りながら、各事業が分断された形ではなく連動した形で取り組めるものがあるのではないかと、予算を大きく使わずとも何か出来るものがあるのではないかと考えている。次期計画に向け既存の事業の洗い出しができればと考えている。

【島尾委員】

2点お尋ねする。

1つ目は、これは郵送で調査を行ったということによろしいか。その際に封入されるものとしては、質問票回答用紙だけか。それともこれに関するチラシやリーフレット、パンフレットみたいなものが一緒に送られているのか。もし送っているなら、興味を持ってみていただける方もいるのではないかと思う。

2つ目は、死にたいと思うほど悩まれたことのある設問の関連で、その原因は何ですかという質問があっ

たが、例えば家庭問題とか経済生活問題、大枠で聞くことは仕方のないことだと思うが、ひとくくりの中でも趣きが違うものが含まれていたりするのではないかな。そうすると、対策を考える場合はもう少しピンポイントでの数字があった方がいいのではないかなという風に感じた。

【事務局】

調査票の郵送時には、相談できる場所の紹介と、相談機関一覧の QR コードを掲載し、チラシを同封した。今回は自殺と依存症を同時に調査しており、精神的に影響を受けられる方も中にはいると思われたので、そのような場合でも相談できるように今回同封した。

二つ目の質問については、仰るように家庭問題を例としても、夫婦関係の不和や、子育ての悩み、介護の問題など様々な問題が含まれ、一括りに「家庭問題」としての対策ではなく、個々の状況に見合った対策が必要であると考え。次期計画の中でも自殺対策は日頃より庁内の様々な関係部署で取り組まれている取り組みそのものである、といった意識を高めていく働きかけは大切であると思っている。

【中村委員】

問 28 の最近 1 年間で「死にたい」と思うほど悩まれたことはありましたかについて、その答えで、「答えたくない」の回答は大事だと思う。「答えたくない」と答えた人は、死にたいと思っていると考えた方がいいと思う。「無回答」は興味ないか、死にたいと思ったのかどちらかわからないところではあるが、「答えたくない」と「無回答」については意味があると思っている。

【事務局】

「答えたくない」や「無回答」の背景には、そう思っているけど答えたくないという方もいたり、「無回答」であってもそういう風に思われている方も背景には少なからずいると思われる。貴重なご意見をいただいたので、それも含めてこちらで検討材料として考えていきたい。

【田邊委員】

確認ですが、発見地の場所とは堺市で亡くなられたものなのか、それとも堺市の人がよそにいて亡くなられたのか。他で集まって自殺するとか、行き当たりばったりでマンションから飛び降りた例もある。堺市外から来ている人なのか、また氏名不詳の方の場合もどのように取り扱うのか。

【事務局】

「地域における自殺の基礎資料」では、(発見地・発見日)にて資料 5 のとおりでているが、堺市では(自殺日・居住地)をベースに集計している。その点では少し誤差はあるが、その自治体のより正確な自殺者を確認するためには(自殺日・居住地)ベースで見の方がよいため、堺市ではこちらを基礎資料として使っている。

【梨谷座長】

発見地ベースの資料もあり、データが変わることもあり、例えば山梨県であれば有名な富士山があるので、やはり数だと発見地ベースでは多くなるということがあり、データによって違いがある。

【梨谷座長】

非常に項目数も多いので、気になる点があれば事務局にご連絡いただきたい。

案件③ 「堺市自殺対策推進計画（第3次）」策定スケジュール（資料7）

来年度は当懇話会を年4回開催予定としている。

案件④ その他

【事務局】

- ・参考資料1はJSCPより出された緊急レポートとなっており、コロナ禍での自殺の分析がなされている資料。
- ・参考資料2は強化月間のポスターになり、毎年3月が自殺対策強化月間となっている。
- ・参考資料3は新型コロナこころのフリーダイヤルのチラシになっており、新型コロナウイルス感染症・の影響により、不安やストレスなどを感じている方への相談窓口として開設している。
- ・参考資料4は堺市の自殺対策のパネル展示で使用するデータとなっており、今回刷新した。この3月の強化月間に合わせてパネル展示にて公開していた。